

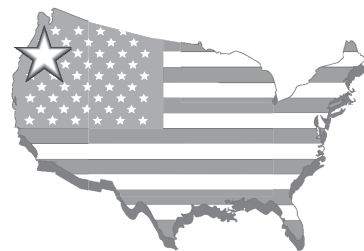


Tokyo, JAPAN

アメリカ留学日記 私の異文化体験記 (3)

早稲田大学文化構想学部 3 年

三浦 礼子



Portland, OR, U.S.A.

2009 年 9 月から 2010 年 6 月まで、オレゴン州ポートランドの Portland State University に留学しています。
このコラムでは、私の留学生としての「異文化体験」を記していきます。

こんにちは。ポートランドでの留学生活が始まってから早くも3カ月が経とうとしています。私を含めアメリカに留学している学生のほとんどが Final-exam の期間を終え、冬休みを楽しんでいるのではないのでしょうか。学期が始まり、日常生活の中の様々なイベント、大学での中間と学期末の exam やグループワークなどを無事に終えたところで、ようやく3週間のまとまった連休です。試験が終了すると同時に、早くも現地の学生たちは実家へ帰省していき、また留学生の多くもこの休暇を利用して旅行へ出て行きました。

この学期をひと区切りとして、この3カ月で自分はどのように過ごしてきたのかを改めて振り返ってみようと思います。前回の原稿を書いていた時点（留学が始まって1カ月ほど）では、カルチャーショックをあまり感じないと言っていましたが、自分が今いる状況に馴染んでくるのと同時に、やはり少しずつ考え方の違いや育ったバックグラウンドによる差を感じ始めています。決してその差によって居心地が悪く感じるだとか、自分が適応できないということではなく、単に自分が長くいた環境（日本で暮らしていた21年間）とは異なる面が見えてきたという意味で皆さんにお伝えできたらと思います。



Japanese Student Society

1、Midterm, Final の2つの試験を終えて

こちらでの試験期間ですが、私の場合、日本で過ごしていた時よりも緊張感を感じます。というのも、テスト期間だという雰囲気が大学全体に流れているのです。24時間オープンのコピュータールームにはエッセイやプレゼンの準備、印刷をする生徒であふれており、図書室の開館時間も普段よりも長く、夜中の1時まで利用することができます。そしてこの時期は、学生同士の会話もこの Final-exam の話題でもちきりといっても過言ではありません。普段、道端で友人と会った時に言う“Hi, how are you?”といったお決まりのあいさつの次に出てくるのは、必ずと言っていいほど「テストはいつ終わるの?」「勉強の調子はどう?」といったフレーズです。レポート一つとっても、それが成績に何パーセント関わってくかということや内容や形式の指定などが日本よりも厳格です。さらに科目によっては小テストやプレゼンテーションの点数がウェブサイトからすぐに確認できますし、学期が終了した1週間後には科目ごとの成績や成績の平均値をあらわす GPA も発表されるので、常に自分が行ったことに対する評価が目に見える形でやってくるのです。

この環境にいと嫌でも試験から目をそらすことができませんが、もっと驚くべきなのはなんといっても試験終了後でしょう。勉強と遊びの切り替えがとにかくはっきりしています。普段から平日は勉強をして週末は遊ぶという習慣が根付いていて、私もこちらにきてから金曜日がどれだけありがたくて開放的になれるのかを実感しました。(笑) 今回の試験の後、学生たちはパーティーをしたりさっそく休暇に入ったり、日本で言う「打ち上げ」の感覚に少し似ているかもしれません。そして授業のある期間は学生同士でいつも遊んでいますが、祝日の連休ともなるといっせいに帰省ラッシュです。ホームシックとはいまだに無縁の私ですが、こんな時は少し日本の家族が懐かしくなります。